

1. 基本情報 評価対象年度 (30 年度)

施策コード	124		施策名	郷土文化の保全・継承			
将来像	1	安全でうれしいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)					
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち					
主担当部	教育部長		主担当課	郷土博物館	主担当係	事業係	
担当者	石川 智裕		役職	教育部長	内線	321	
関係課	市史編さん室						

2. 施策の方向

10年後の姿	清瀬の歴史への理解が深まり、誇りと愛着が生まれています。また、次世代に清瀬の歴史と文化が継承されています。	
施策の方向性	1	市民が郷土文化にふれ、清瀬への愛着と誇りを高める環境を整備します
	2	市の歴史や文化を次世代に継承します
	3	学校教育での郷土博物館の資料や人材の活用を推進します

3. 構成事業の状況 (単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成29年度決算	平成30年度決算	平成31年度予算
0102010817	市史編さん事業	対象	2	市史編さん室	7,786	7,891	20,434
0110050302	博物館協議会事業		すべて	郷土博物館	112	47	56
0110050303	博物館施設維持管理事業		すべて	郷土博物館	19,107	61,667	15,805
0110050305	博物館事業	対象	すべて	郷土博物館	3,874	2,363	7,486
0110050321	特別展事業	対象	1	郷土博物館	6,143	1,227	6,786
0110050602	文化財保全事業	対象	すべて	郷土博物館	357	756	236
0110050603	埋蔵文化財事業		すべて	郷土博物館	20	20	320
0110050604	旧森田家運営管理事業	対象	すべて	郷土博物館	962	663	684
総事業費(施策の合計)					38,361	74,634	51,807

4. まちづくり指標

指標情報				平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和3年度	令和7年度	
①	名称	郷土博物館入館者数		目標値	48,000	53,000	55,000	57,000	58,000
	説明	郷土博物館年間入館者合計数	単位 人	実績値	52,611	38,492	/		
	抽出方法	来館者カウンターによる人数		達成率	109.6%	72.6%			
②	名称	市の歴史や伝統文化、文化財等に関心があると 思う人の割合		目標値	—	—	—	53.0	55.0
	説明		単位 %	実績値	51.8	—	/		
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	—			
③	名称	この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加し たりしたことがある人の割合		目標値	—	—	—	68.0	70.0
	説明		単位 %	実績値	66.0	—	/		
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	—			

5. 評価(平成30年度実績に対する)

評価基準	評価	評価理由
投入財源・成果 (「3. 構成事業 の状況」「4. まち づくり指標」)に 対する評価	総合評価 (成果、投入財源等を 総合的に評価) 維持	博物館の主要事業である特別展の、清瀬の富士講展では、清瀬近隣の住民だけでなく多方面からお客様を呼ぶことができ、渡辺うめ人形展では古き良き時代の農村風景を題材とした展示となり、清瀬の原風景と重ね合わせることで、まだ緑が多く残っている郷土の良さを感じてもらえた。また博物館事業では、先人の知恵に学ぶ・年中行事及び講座等の教育普及等を柱として例年通り実施できている。その他毎回盛況ぶりを見せるコンサート、固定客が多い映画会なども定着してきており、多種多様な事業展開を維持しており、開館当初からの目標である「地域に根ざす博物館」として文化活動の発展に寄与している。 市史編さん事業においては、「清瀬市史」の計画的な刊行のため、市史編さん委員会の開催や専門部会による資料収集、調査並びに執筆等の準備・調整を予定どおり実施できた。また、「市史研究きよせ」の刊行や市史編さんブログ「市史で候」の更新、市史講演会を開催するなど、市史編さん事業の普及・啓発を効果的に行うことができた。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	市民コミュニティの醸成を図る目的で郷土博物館の様々な利用が今後増大する。	3.施策の必要性を高める	多種多様な市民の要望に応えるため施設の充実を図っていかねばいけないため。
将来人口の推移	市内人口における少子高齢化のさらなる増大。	3.施策の必要性を高める	清瀬の土地柄に見合った事業展開の構築が今後も求められていく。
他自治体との比較	立川市、羽村市、府中市、小金井市、狛江市などにおいて市史編さん事業を実施している。	1.施策遂行に役立つ・有利	市史編さんを行う上で、各市の取り組み方法が参考になる。
民間企業・NPO・市民の動向	市内の市民サークルやNPO法人等でも博物館と同種のイベントを行なっている。	4.施策の必要性を低減する	博物館で実施する意味合いが出せなければその事業の必要性が問われるため。
法・制度改正の動向	文化財保護法の一部改正。	3.施策の必要性を高める	今後改正に向けた事業の展開が求められるから。
技術革新の動向	館内自動音声(翻訳を含む)ガイドやCG技術の発達。	1.施策遂行に役立つ・有利	今後技術革新が求められることが予想されるが、導入には多額の費用を要することから、慎重な対応が必要となる。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	少子高齢化が進む中、各年齢層をターゲットとした事業展開が求められる。特に児童をより博物館に呼び込むためには、博物館という枠を飛び越えた施策の検討も必要となる。また文化財事業では行政では抱えきれない文化財保護・保全について市民の力を活用していくことが必要となる。		
	関連する事務事業名	博物館事業	文化財保全事業	埋蔵文化財事業
	現在の取組状況	博物館サポーターの育成のため各講座の回数を増やし開催。また博物館のスタンプラリーを継続実施して、博物館事業への参加を呼び掛けている。文化財事業では学芸員へのOJTや研修への参加を進め、更なる専門知識の習得に力を入れている。		
	令和2年度以降の取組	子供向け事業・シニア向け講座の充実を図る。また新たな歳入確保のため、ネーミングライツパートナー等の募集案を構築する。		
②	施策を進める上での課題	これまでの芸術的な作品の美術鑑賞も必要であるが、子供から高齢者までが興味を示し、一緒になって参加できるような体験型の展覧会の実施が求められる。		
	関連する事務事業名	特別展事業		
	現在の取組状況	映像コンテンツの体験が出来たり、ジオラマで古代の清瀬の風景を作ったりといった視聴覚に力を入れた展示を行っている。		
	令和2年度以降の取組	昔の遊びや、お祭りの縁日など、古き良き時代の生活風習の再現などを取り入れた展示を行う。		
③	施策を進める上での課題	昇降機、自動ドア、ギャラリー稼働パネル、消防設備など博物館施設の老朽化に対応するための整備方針が求められる。		
	関連する事務事業名	博物館施設維持管理事業		
	現在の取組状況	伝承スタジオ前庭舗装、屋上屋根梯子改修などを順次実施し、施設整備を進めていく予定。		
	令和2年度以降の取組	博物館施設整備のため、昇降機、自動ドア、消防設備等の改修及びギャラリー内装工事費用を計画的に進めていく。		
④	施策を進める上での課題	令和元年度から『清瀬市史 資料編』を毎年度1冊ずつ刊行し、令和6年度の『清瀬市史 通史編』の刊行を目的に市史編さんを進めていくが、限られた人員、予算並びに期間において効率的に作業を進め、最大限の効果を上げることが求められる。		
	関連する事務事業名	市史編さん事業		
	現在の取組状況	「清瀬市史」を計画的に刊行するため、市史編さん委員会の開催、市史編さん専門部会による調査・執筆などの活動の準備・調整を行うとともに、広く市民に向けて市史編さん事業の普及・啓発を行っている。		
	令和2年度以降の取組	現在の取り組みに加え、令和6年度までは、新たな「清瀬市史」の刊行年度にあたることから、印刷製本事業者の選定を速やかに行うなど、遅滞なく作業を進めていくとともに、令和2年10月には、清瀬市市制施行50周年記念誌の刊行を行う。		